

平成15年度 子どもを煙害から守る事業報告書



社団法人 日本小児科医会

目 次

概 要.....	3
事業実施の状況.....	4
冊 子.....	9
解 説 書.....	13
冊子を利用して.....	14
総 論.....	16

概 要

近年青少年、特に中学生、高校生の喫煙が常習化している。
(社)日本小児科医会としては、小児科外来での未成年者と保護者の
禁煙教育補助の冊子と解説書を作成した。

事業実績報告書

事業名	子どもを煙害から守る事業
事業の実施状況	<p>1 禁煙推進委員会開催(6回)</p> <p>設置目的</p> <p>能動および受動喫煙が子供に及ぼす煙害の被害を明確に示す小冊子を作成し、小児科外来を受診した喫煙している子どもと保護者に禁煙を促す。</p> <p>委員構成(計8名)</p> <p>委員長 小川 英治(社団法人 日本小児科医会 副会長)</p> <p>委員 神川 晃(社団法人 日本小児科医会 常任理事)</p> <p style="padding-left: 2em;">古平金次郎(社団法人 日本小児科医会 常任理事)</p> <p style="padding-left: 2em;">秋津 宏機(社団法人 日本小児科医会 理事)</p> <p style="padding-left: 2em;">相澤 昭(社団法人 日本小児科医会 監事)</p> <p style="padding-left: 2em;">半田 恵章(社団法人 日本小児科医会 事務局長)</p> <p>監修 加治 正行(静岡県立子ども病院内分泌代謝科 医長)</p> <p style="padding-left: 2em;">藤原 芳人(ふじわら小児科 院長)</p> <p>委員会開催時期、場所、出席者、議題</p> <p>第1回委員会 平成15年4月20日 13:00~14:00</p> <p>場 所 日本小児科医会事務局</p> <p>出 席 小川英治 古平金次郎 神川晃 相澤昭 半田恵章 5名</p> <p>議 事 本年度事業計画について</p> <p style="padding-left: 2em;">助成金交付申請について</p> <p>第2回委員会 平成15年5月17日 13:00~14:00</p> <p>場 所 仙台国際センター</p> <p>出 席 小川英治 古平金次郎 神川晃 相澤昭 半田恵章 5名</p> <p>議 事 事業計画の作成について</p> <p style="padding-left: 2em;">相談員の人選について</p> <p style="padding-left: 2em;">助成金交付申請書作成について</p>

事業の 実施状況	第3回「子どもを煙害から守る」委員会
	日 時 平成15年7月13日 午後3：00～6：00
	場 所 八重洲龍名館
	出席者 小川英治 古平金次郎 神川晃 加治正行 藤原芳人 半田恵章 6名
	議 事 禁煙指導冊子の内容と構成について 小児科外来での禁煙指導解説書について
	第4回「子どもを煙害から守る」委員会
	日 時 平成15年9月7日 午後3：00～6：00
	場 所 八重洲龍名館
	出席者 小川英治 古平金次郎 神川晃 加治正行 藤原芳人 半田恵章 6名
	議 事 禁煙指導冊子の表題、表紙デザイン、内容および構成について
	第5回「子どもを煙害から守る」委員会
	日 時 平成15年10月11日 午後4：00～7：00
	場 所 東京駅大丸ルビーホール
	出席者 神川晃 加治正行 藤原芳人 相澤昭 4名
	議 事 禁煙指導冊子「タバコから子どもを守ろう」の表紙、内容および構成の決定 解説書の構成について(総論と指導書に利用の仕方)
	第6回「子どもを煙害から守る」委員会
	日 時 平成16年1月25日 午後3：00～5：00
	場 所 八重洲龍名館
	出席者 小川英治 古平金次郎 神川晃 半田恵章 4名
	議 事 禁煙指導冊子および解説書の最終校正 報告書の作成について

事業の 実施状況	2 作成した冊子および解説書を配布した																																																																	
	<p>配布先</p> <table> <tr> <td>日本小児科医会会員</td> <td>6500ヶ所 × 1部 =</td> <td>6500部</td> </tr> <tr> <td>大学病院、病院</td> <td>200ヶ所 × 1部 =</td> <td>200部</td> </tr> <tr> <td>都道府県小児科医会、関連学会</td> <td>150ヶ所 × 1部 =</td> <td>150部</td> </tr> <tr> <td>医師会、企業</td> <td>300ヶ所 × 1部 =</td> <td>300部</td> </tr> <tr> <td>保健所、福祉センター、一般希望者</td> <td></td> <td>1400部</td> </tr> <tr> <td>保存分</td> <td></td> <td>450部</td> </tr> </table> <p>配布先</p> <table> <tr> <td>日本小児科医会会員</td> <td>横浜市立付属福浦病院小児科外来</td> </tr> <tr> <td>厚生労働省</td> <td>横浜市市民総合医療センター小児科</td> </tr> <tr> <td>日本小児科学会</td> <td>小田原市立病院小児科</td> </tr> <tr> <td>日本小児保健協会</td> <td>藤沢市立病院小児科</td> </tr> <tr> <td>全国医師会</td> <td>神奈川県立足柄上病院小児科</td> </tr> <tr> <td>全国保健所長会</td> <td>神奈川県立こども医療センター</td> </tr> <tr> <td>日本看護協会</td> <td>周産期医療センター</td> </tr> <tr> <td>日本小児総合医療施設協議会</td> <td>横浜市立市民病院小児科</td> </tr> <tr> <td>難病のこども支援全国ネットワーク</td> <td>神奈川県衛生看護専門学校付属病院小児科</td> </tr> <tr> <td>母子衛生研究会</td> <td>昭和大学藤ヶ丘病院小児科</td> </tr> <tr> <td>医学部および大学病院小児科</td> <td>聖マリアンナ医科大学小児科</td> </tr> <tr> <td>基幹病院小児科</td> <td>けいゆう病院小児科</td> </tr> <tr> <td>都道府県小児科医会</td> <td>横浜市南共済病院小児科</td> </tr> <tr> <td>関連学会等</td> <td>国際親善総合病院小児科</td> </tr> <tr> <td>静岡県立子ども病院</td> <td>横浜市小児アレルギーセンター</td> </tr> <tr> <td>小川小児科医院(盛岡市)</td> <td>国立横浜病院小児科</td> </tr> <tr> <td>ふじわら小児科(横浜市)</td> <td>横浜市立港湾病院小児科</td> </tr> <tr> <td>神川小児科クリニック(大田区)</td> <td>済生会神奈川県病院小児科</td> </tr> <tr> <td>こだいら小児科(世田谷区)</td> <td>済生会横浜市南部病院小児科</td> </tr> <tr> <td>相澤小児科医院(中野区)</td> <td>横浜市栄共済病院小児科</td> </tr> <tr> <td>大田区立中萩中小学校</td> <td>鶴見区真田病院</td> </tr> <tr> <td>大田区立東六郷保育園</td> <td>横浜労災病院小児科</td> </tr> <tr> <td>大田区立萩中保育園</td> <td>神奈川県小田原保健所</td> </tr> <tr> <td>横浜市立大学医学部小児科学教室</td> <td>神奈川県鎌倉保健所</td> </tr> </table>	日本小児科医会会員	6500ヶ所 × 1部 =	6500部	大学病院、病院	200ヶ所 × 1部 =	200部	都道府県小児科医会、関連学会	150ヶ所 × 1部 =	150部	医師会、企業	300ヶ所 × 1部 =	300部	保健所、福祉センター、一般希望者		1400部	保存分		450部	日本小児科医会会員	横浜市立付属福浦病院小児科外来	厚生労働省	横浜市市民総合医療センター小児科	日本小児科学会	小田原市立病院小児科	日本小児保健協会	藤沢市立病院小児科	全国医師会	神奈川県立足柄上病院小児科	全国保健所長会	神奈川県立こども医療センター	日本看護協会	周産期医療センター	日本小児総合医療施設協議会	横浜市立市民病院小児科	難病のこども支援全国ネットワーク	神奈川県衛生看護専門学校付属病院小児科	母子衛生研究会	昭和大学藤ヶ丘病院小児科	医学部および大学病院小児科	聖マリアンナ医科大学小児科	基幹病院小児科	けいゆう病院小児科	都道府県小児科医会	横浜市南共済病院小児科	関連学会等	国際親善総合病院小児科	静岡県立子ども病院	横浜市小児アレルギーセンター	小川小児科医院(盛岡市)	国立横浜病院小児科	ふじわら小児科(横浜市)	横浜市立港湾病院小児科	神川小児科クリニック(大田区)	済生会神奈川県病院小児科	こだいら小児科(世田谷区)	済生会横浜市南部病院小児科	相澤小児科医院(中野区)	横浜市栄共済病院小児科	大田区立中萩中小学校	鶴見区真田病院	大田区立東六郷保育園	横浜労災病院小児科	大田区立萩中保育園	神奈川県小田原保健所	横浜市立大学医学部小児科学教室
日本小児科医会会員	6500ヶ所 × 1部 =	6500部																																																																
大学病院、病院	200ヶ所 × 1部 =	200部																																																																
都道府県小児科医会、関連学会	150ヶ所 × 1部 =	150部																																																																
医師会、企業	300ヶ所 × 1部 =	300部																																																																
保健所、福祉センター、一般希望者		1400部																																																																
保存分		450部																																																																
日本小児科医会会員	横浜市立付属福浦病院小児科外来																																																																	
厚生労働省	横浜市市民総合医療センター小児科																																																																	
日本小児科学会	小田原市立病院小児科																																																																	
日本小児保健協会	藤沢市立病院小児科																																																																	
全国医師会	神奈川県立足柄上病院小児科																																																																	
全国保健所長会	神奈川県立こども医療センター																																																																	
日本看護協会	周産期医療センター																																																																	
日本小児総合医療施設協議会	横浜市立市民病院小児科																																																																	
難病のこども支援全国ネットワーク	神奈川県衛生看護専門学校付属病院小児科																																																																	
母子衛生研究会	昭和大学藤ヶ丘病院小児科																																																																	
医学部および大学病院小児科	聖マリアンナ医科大学小児科																																																																	
基幹病院小児科	けいゆう病院小児科																																																																	
都道府県小児科医会	横浜市南共済病院小児科																																																																	
関連学会等	国際親善総合病院小児科																																																																	
静岡県立子ども病院	横浜市小児アレルギーセンター																																																																	
小川小児科医院(盛岡市)	国立横浜病院小児科																																																																	
ふじわら小児科(横浜市)	横浜市立港湾病院小児科																																																																	
神川小児科クリニック(大田区)	済生会神奈川県病院小児科																																																																	
こだいら小児科(世田谷区)	済生会横浜市南部病院小児科																																																																	
相澤小児科医院(中野区)	横浜市栄共済病院小児科																																																																	
大田区立中萩中小学校	鶴見区真田病院																																																																	
大田区立東六郷保育園	横浜労災病院小児科																																																																	
大田区立萩中保育園	神奈川県小田原保健所																																																																	
横浜市立大学医学部小児科学教室	神奈川県鎌倉保健所																																																																	

<p>事業の 実施状況</p>	<p>配布先</p> <p>(財)神奈川県予防医学協会 健康教育センター</p> <p>禁煙・分煙活動を推進する神奈川県議 安陪内科医院(鳥取市)</p> <p>東京女子医科大学衛生学公衆衛生学教室</p> <p>岐阜大学医学部附属病院第2内科</p> <p>日本赤十字社 和歌山医療センター呼吸器科</p> <p>市来歯科(鹿児島市)</p> <p>岩瀬眼科医院(立川市)</p> <p>公立学校共済組合東北中央病院放射線科</p> <p>長崎県立成人病センター多良見病院</p> <p>静岡市立東中学校</p> <p>加藤医院(浜名郡)</p> <p>旭中央病院内科(旭市)</p> <p>京都府立医科大学附属脳・ 血管系老化研究センター 社会医学・人文科学部</p> <p>洲本市健康福祉館内 健康福祉部健康課</p> <p>山家耳鼻咽喉科(堺市)</p> <p>横山内科循環器科医院(静岡市)</p> <p>茨城県立中央病院・ 地域がんセンター内科</p> <p>石井第一産科婦人科クリニック(浜北市)</p> <p>石井歯科医院(新潟市)</p> <p>加古川市役所 福祉保健部健康福祉課</p> <p>京都第一赤十字病院健診部</p> <p>新潟大学大学院医歯学総合研究科 国際感染医学講座 公衆衛生学分野</p> <p>神戸アドベンチスト病院内科</p> <p>東京大学大学院医学系研究科 国際地域保健学教室</p> <p>杏林大学医学部神経内科</p> <p>香川医科大学放射線部</p> <p>三條医院(新庄市)</p> <p>かもめ歯科(枝幸郡)</p> <p>鈴木内科クリニック</p> <p>奈良女子大学保健管理センター</p> <p>田中医院(京都市)</p> <p>禁煙教育をすすめる会/ 喫煙と健康女性会議(渋谷区)</p> <p>順天堂大学医学部産婦人科教室</p> <p>平間病院院長(下妻市)</p> <p>長崎大学医学部附属病院総合診療部</p> <p>森島医院(塩谷郡)</p> <p>富ヶ岡学園(豊明市)</p> <p>静岡県立静岡がんセンター脳神経外科</p> <p>大阪府立健康科学センター 健康生活推進部</p> <p>公立豊岡病院産婦人科</p> <p>福地外科循環器科医院(静岡市)</p> <p>御殿場保健所</p> <p>静岡県総合健康センター</p> <p>白鳥歯科医院(富士市)</p> <p>京都大学大学院医学研究科 国際保健学講座</p> <p>静岡大学教育学部</p> <p>中京大学体育学部</p> <p>新潟厚生連魚沼病院内科</p> <p>少年写真新聞社第2編集部</p> <p>和クリニック(浜松市)</p> <p>小笠原保健所</p> <p>かまたクリニック(三島市)</p> <p>公立学校共済組合中国中央病院第2内科</p> <p>産業医科大学産業生態科学研究所</p> <p>葦崎保健所</p> <p>西牟婁地方教育事務所</p> <p>たかの呼吸器内科クリニック(八代市)</p>
---------------------	--

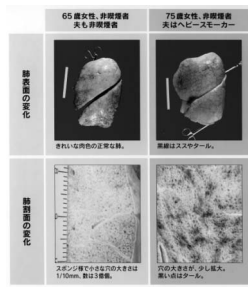
事業の
実施状況

配布先

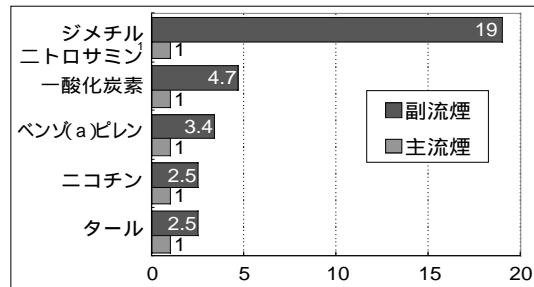
長谷内科医会(藤沢市)	折居内科病院(寒河江市)
セイコーエプソン(株)	上野毛歯科(世田谷区)
広丘事業所内診療所(塩尻市)	徳田産婦人科(池田市)
大橋外科(新居浜市)	東北大学病院予防歯科
神戸アドベンチスト病院	茨城県立中央病院
宇和島市日振島診療所	地域がんセンター内科
井石内科(新居浜市)	新中川病院内科(横浜市)
京都市城北病院	院庄林業(津山市)
本荘内科・呼吸器科(岐阜市)	鬼海小児科医院(酒田市)
長崎県健康ながさき21たばこ対策部会	佐久間医院(東田川郡)
青山学院女子短期大学保健室	小田原市小児科懇話会
池田町立病院(北海道)	秋濱小児科(熊谷市)
大野内科医院(仙台市)	札幌医科大学保健医療学部看護学科
愛媛県立医療技術短期大学	みかわクリニック(上浮穴郡)
愛知学院大学歯学部歯科保存学第3講座	鹿児島大学
佐久間医院(東田川郡)	金沢大学医学部保健学科
落合病院(岡山県)	母性・小児看護学教室
さおの森歯科クリニック(川之江市)	ながやま小児科
北條胃腸外科(川口市)	アレルギークリニック(宮崎市)
鳥取生協病院	佐賀県厚生部健康増進課
北海道禁煙サポートセンター	エキサイカイ病院内科(長崎市)
岡山済生会総合病院	旭川厚生病院
村上こどもクリニック(鹿児島市)	坂井歯科医院(亀岡市)
国立循環器病センター循環器病 予防検診部	国立相模原病院小児科
富山県立中央病院禁煙支援チーム	池田病院(鹿屋市)
まつだ小児科医院(倉吉市)	道灌山学園(荒川区)
	今村医院(銚子市)

(順不同)

冊子



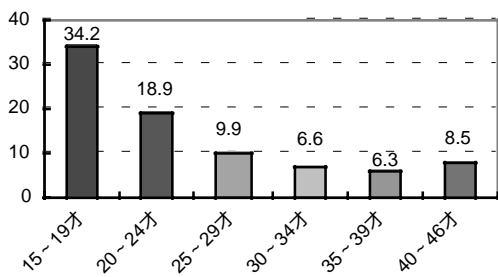
1 pp 副流煙！自殺の道連れ？受動喫煙による発がん性(肺の写真2枚)



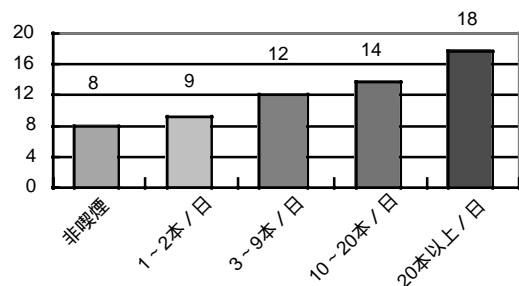
2 pp ダイオキシンと有害物質

3 pp タバコの煙は子どもへの虐待

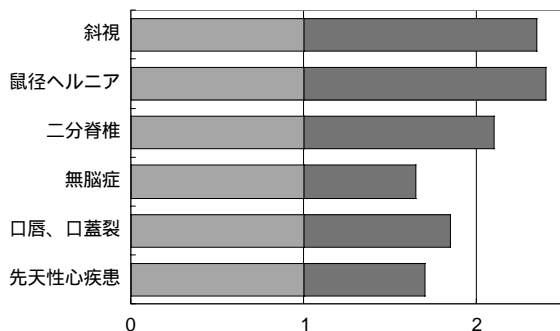
お子さんに副流煙を吸わせると様々な疾患の原因，誘因になることの多くの報告があります。乳幼児突然死症候群をはじめ日常の診療において喘息発作の頻度や重症度の違い，そして急性気管支炎や肺炎に罹りやすいなど，またRSウイルス感染症の頻度にも違いが報告されています。慢性副鼻腔炎（蓄膿症），アデノイド増殖，中耳炎，扁桃肥大など家庭の空気汚染により特に呼吸器系は侵襲を受けやすいことが容易に推察されます。髄膜炎，ペルテス病，アトピー性皮膚炎などの指摘も多くの報告があります。それにともない通院や入院が増えます。医療費もかさむでしょう。そして受動喫煙により子どもの血中の鉛濃度が有意に増加しているため，身長の伸びが悪くそして知能の発達が劣るといふ報告もあります。歯肉着色にとどまらず虫歯になりやすいといわれています。当然，発ガン物質の侵襲により成人後の発癌率が高くなります。



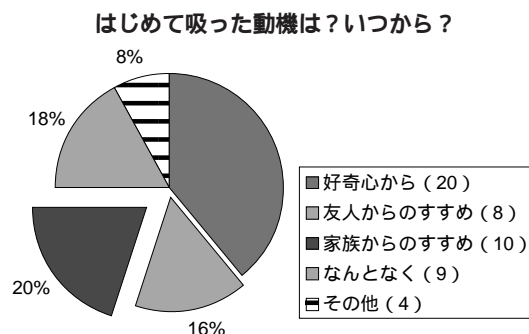
4 pp 妊娠後もタバコを吸い続けるおかあさん



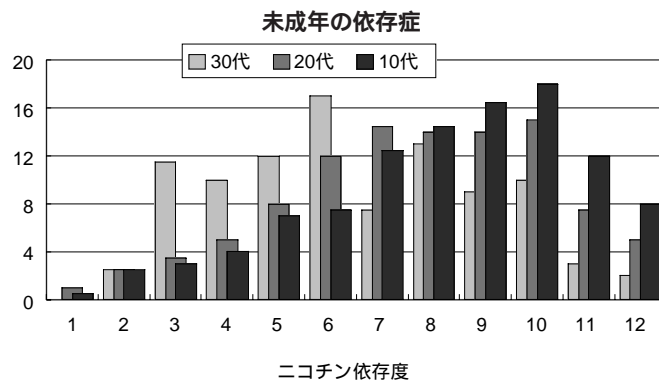
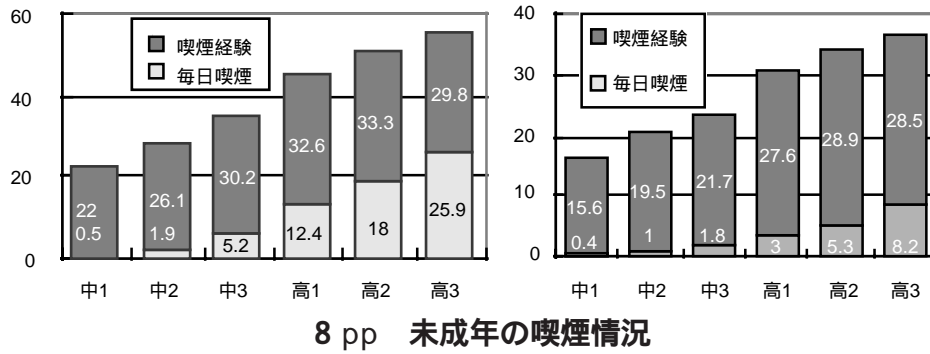
5 pp 妊婦の喫煙と子どもへの影響



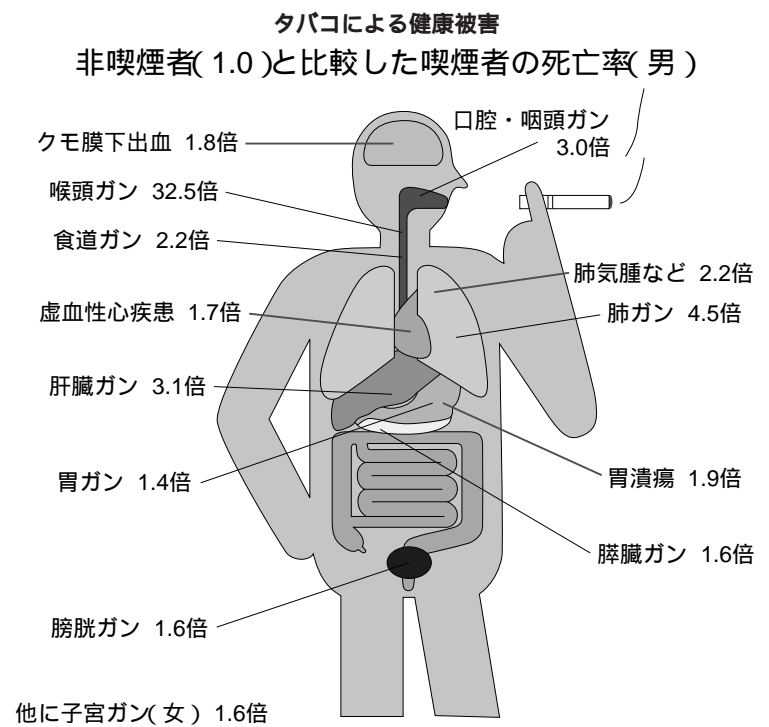
6 pp 赤ちゃんに病気が起こる危険度



7 pp 小学生の喫煙動機(加治委員)



9 pp 若年ほどタバコに依存しやすい 人体図によるタバコの害について



10pp タバコが原因での死亡 肺がんのリスクについて



11pp 肺がん
 実際の肺ガンの肺の
 縦断面です。



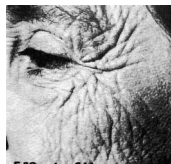
12pp バージャー病



13pp タバコのパッケージとタバコの手(脳卒中、慢性閉塞性呼吸器障害、心筋梗塞)

それぞれの写真はいずれもカナダのタバコのパッケージですが印象的な警告表示です。

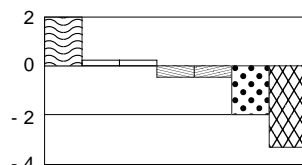
14pp しわ 歯周病



・タバコで深いしわが増える

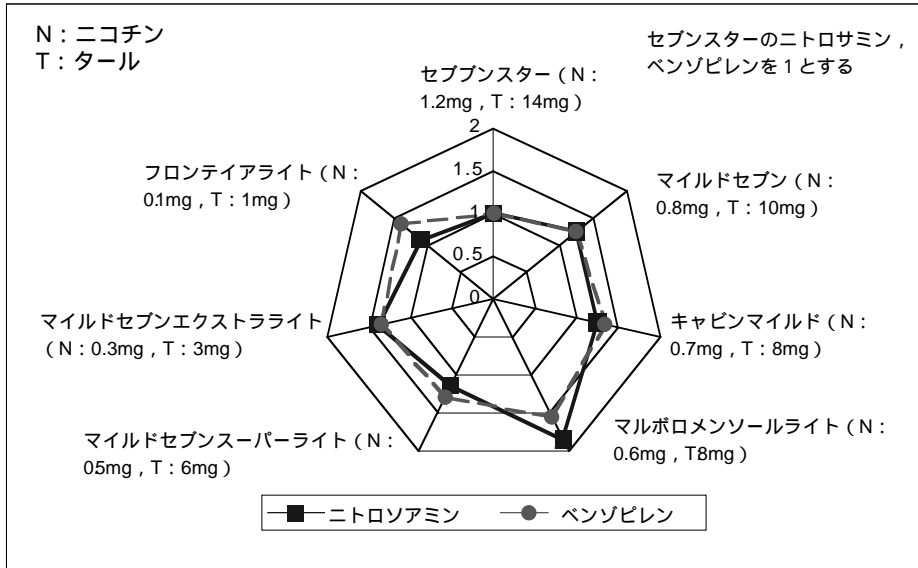


・歯周病は治らない



15pp タバコによる経済的な損失

低ニコチンタバコの副流煙中の発ガン物質



16, 17, 18pp 子どもへのタバコの害を減らす方法の紹介

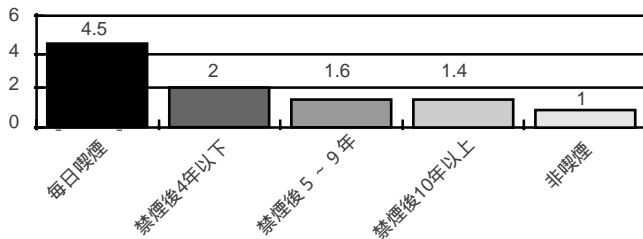
19pp 禁煙補助剤



ニコレット



ニコチネル貼付剤



20, 21pp、喫煙はいくつからでも止められる

ニコチンの離脱症状のピークは最初の3日以内です。やめれば効果がいろいろ出てきます。咳が増えるなど短期間で出てくる場合があります。これはむしろ弱っていた気管支の繊毛上皮の働きがよくなり痰の排出がよくなった現れなのです。まずは禁煙の効果を楽しんでみてと深刻にならないように努めます。ただし酒席には注意を！



22pp タバコの自動販売機、これでよいのだろうか！

受動喫煙の防止！

健康増進法 2003年5月1日施行

第五章 第二節 受動喫煙の防止

学校、体育館、病院、劇場、観覧場、集会場、展示場、百貨店、事務所、官公庁施設、飲食店その他「多数の者が利用する施設を管理する者は、これらを利用する者について、受動喫煙（室内又はこれに準ずる環境において、他人のタバコの煙を吸わされることをいう）を防止するために必要な措置」を講ずるよう努力しなければならない。

「その他」の対象は、バス、タクシー、航空機、駅、屋外競技場、商店、旅館、金融機関、美術館など。

「厚生労働省分煙効果判定基準によれば、

1. 完全禁煙は極めて有効

2. 排気装置による完全分煙

ここでいう分煙は有害成分を取り除けない空気清浄機に頼らず、煙が漏れない喫煙所を設けて外に排気するなど、効果的な対策をすることとなっている。

受動喫煙の防止を法的に義務づけた！

「副流煙の害」を国が認めたということです！

健康日本21のタバコ対策：非喫煙者の保護

不特定多数の集まる公共空間（公共の場所及び歩行中も含む）や職場では原則禁煙を目指す。

家庭内での受動喫煙の危険性についても、普及啓発を図る。

裏表紙 健康増進法の概要

総論要旨

静岡県立子ども病院内分泌代謝科医長 加治正行

成長発達過程にある小児は、受動喫煙によって様々な健康被害を受けやすい。小児が受動喫煙にさらされると、乳幼児突然死症候群、気管支喘息、呼吸器疾患、中耳炎などに罹患しやすくなるばかりでなく、身体発育や知能の発達も悪影響を受ける。子どもを受動喫煙の害から守ることは小児科医の重要な使命の一つであるが、日常臨床上よく遭遇する疾患のほとんどは、受動喫煙が誘因あるいは増悪因子となっているため、家族の喫煙状況についての問診が重要である。次に、子どもが受動喫煙から受ける健康被害の大きさについて医学的データに基づいて説明すると、ほとんどの親が理解して配慮してくれるものである。子どもの受動喫煙を防ぐためには、このような問診と情報提供が有効である。

出生前の胎児も、妊婦の喫煙・受動喫煙によって重大な健康被害を受ける。妊婦の喫煙や受動喫煙は、胎児期の成長発達を阻害して、自然流産や早産、周産期死亡のリスクを高め、出生体重の低下を招くだけでなく、乳幼児突然死症候群や様々な先天異常、悪性腫瘍などの発症も増加させる。また、喫煙妊婦から生まれた児は身長伸びが悪く、知的発達も劣るだけでなく、注意欠陥多動性障害や様々な反社会的行動を起こす率が高いと指摘されている。妊婦の喫煙・受動喫煙を防止することは、わが国の将来にも関わる危急の課題と言える。

昨今、未成年者の喫煙率が上昇しているが、それはタバコが非常に安価で、しかも自動販売機で容易に入手できるという、喫煙に対して寛容なわが国の社会環境に大きな原因がある。今後は『子どもを守る』という言葉キーワードとして、タバコが野放しになっているわが国の社会環境を改めてゆく必要がある。

各論(解説書利用法)要旨

ふじわら小児科 院長 藤原芳人

表題は「たばこ」ではなく「タバコ」としました。これは本来、tabaccoからの外来語なのでカタカナなのです

本書は子どもにとってタバコがどれだけ悪い影響があるかを中心に作成しました。従って受動喫煙を中心に、そして防煙教育的な観点からもタバコの害も強調し、家族の禁煙のために必要な知識啓発に力点を置いていきます。とくに日常に診療時間の中で効果的に禁煙指導を可能にするためビジュアル的なものを多く採用しました。いずれの頁からでも図、写真を示して話が進められるように心がけました。

- 1) 受動喫煙：副流煙の詳解と受動喫煙の具体例を挙げています。若年女性の喫煙の増加に対する警鐘の意味を込めて妊婦の喫煙状況と胎児への影響についても提示しました

た。

- 2) 防煙教育：未成年の喫煙もまた大きな問題でその実情についてもふれました。若年であるほど、依存性も強くまた影響が大きいことも示しました。
 - 3) タバコによる健康被害：副流煙によるものも含めて、ガンのみならず様々な具体例も大きく取り上げました。
 - 4) 禁煙の実行：家族のタバコへの対処法の問題点についても具体的な対応策を述べました。禁煙を希望する方に、それが実現できるようにニコチン依存症とその恐ろしさについて理解して頂き、そこからの脱却法とニコチン製剤の導入に必要な情報も載せてあります。そして禁煙することのメリットについてもまとめました。
- 裏表紙には健康増進法の受動喫煙の防止条項を解釈し注釈とともに掲載しました。

冊子を利用して

東京にて小児科クリニック開業 A K

昨年「子どもを煙害から守る」公開講座で、加治正行先生の講演を拝聴し禁煙外来に興味を持ちました。しかし、手元に禁煙を指導するための資料はなく、加治先生の著書から参考資料をコピーさせていただき外来での禁煙指導に用いていました。今回、日本小児科医会から禁煙指導を勧めるにあたり利用する冊子が送られてきました。喫煙している子どもや保護者に衝撃を与える写真、喫煙の害、統計データなどが満載され、利用しやすく、素晴らしい冊子を作成していただき感謝しております。子どもの診察をしていてタバコの匂いがする子どもの保護者に、この冊子を用いてタバコの害を説明し、本当に怖いタバコの害を強調しております。今後も禁煙活動を継続されることを期待しております。

禁煙運動について

大田区開業医 S K

常日頃からタバコの害を正確に伝えるべきと考えていました。しかし纏まった本がなかなかなく困っておりました。日本小児科医会より禁煙指導の用いる冊子と解説書が送られて来て喜んでおります。日本では、喫煙の被害に関する認識が希薄で、公衆の場で喫煙している人の多さにうんざりしていました。駅周辺ではタバコのいやなにおいが充満し、道を歩けば前の人のタバコの煙を強制的に吸わされる理不尽さに苛立ちを覚えずにはられません。この副流煙による非喫煙者の被害は想像を絶するもので、広く社会に主張する必要性がありました。この冊子にはこれらのことが過不足なく掲載され大変ありがたく思いました。禁煙を推進するため今後とも日本小児科医会の活動を期待しております。

『タバコから子どもを守ろう』の使い方

世田谷区小児科開業 KK

T君(3才)を連れて、久し振りにお母さんが来院しました。お腹が大きいので「いつ予定日ですか」と聞いたところ、「今6ヶ月ですから、8月3日です」という答が返ってきました。この話し中で口からタバコの臭いがしたので、「妊娠中でも、タバコを吸っているの」とたずねました。ばつが悪そうな顔をして「どうしても、止められないのです」という答えでした。そこで『タバコから子どもを守ろう』の本 いつも診察机の上にこれみよがしに置いている の3頁と4頁を見せて、生れてくる子の体重・身長への影響、知能にも影響を与えるし、SIDSになり易いことをグラフで見ながら、絶対に妊娠中のタバコは止めなければいけないと話しました。この本の16頁をみせて、「どうしてもタバコが止められない時は、シールを貼ったり、ニコレットという錠剤を使うことも出来るから」と強い口調で諭しました。そして、この本を待合室で読んでみなさいと云って渡しました。本を返しながらか「これで禁煙の決心ができました」といって帰宅しました。あの真剣な顔つきからみて、禁煙に取り組んでくれたと信じています。

その次の日、喘息のA君(7才)の咳が止まらないと云って、今日になり3回目の来院がありました。きちんと薬を飲んでいるということなので、「家でタバコを吸っている人がいますか」と聞いたところ「主人も私も吸っています」という返事でした。それでは咳、とくに喘息の子の咳は止まりませんと云って、『タバコから子どもを守ろう』の本の3頁を見せて、「このようにはっきりと、タバコは喘息には悪い影響を与えるし、治りずらくしているのですよ。喘息の子のいる家では禁煙を守って下さい。そのうえ、吸い続けるとご存知のように貴女方も肺ガンになりやすいですよ」と話しました。お母さんにはこの本を待合室でよく読んでもらうことにしました。帰り際に、「もし主人が禁煙したくないと云ったら連れてきますから、その時は先生からよく話して下さい」と頼まれました。その後、連れて来ないところをみると努力中なのではと思っています。

このように私の診療所では、チャンスを見て『タバコから子どもを守ろう』の見て解り易い本を使って、保護者の禁煙をすすめています。

以上

事業の成果

タバコがどれほど子どもたちに害を与えているか本書をご覧になってお分かり頂けたと思います。

本書が全国各地の小児科診療現場のみならず、さらに家庭、幼稚園、保育園、学校など地域の禁煙活動に広く利用されることを期待したいものであります。

また、日本医師会が行っている禁煙プロジェクト委員会においても本書を提示説明し、子どもを煙害から守ることの重要性を理解して頂き、より巾の広い禁煙活動推進の成果を挙げてまいりたいと考えております。

(社)日本小児科医会から禁煙宣言

子どもは国の宝です。

その子どもたちの健康を守るために、煙害の恐ろしさを正しく、国民に理解していただく運動を進めます。

それとともに、パパ、ママ自身の健康のためだけでなく、子どものためにもタバコのない家庭を築くことを提唱いたします。

独立行政法人 福祉医療機構助成金事業